

第59回中学生作文コンクール

都道府県別賞一等

保険と安心

広島県 呉市立呉中央中学校 三学年

伊東 璃子

「これは、保険の一枚にしてとっておこうね。」

書道教室で、これならまあ良いと思った作品ができたときの合言葉みたいなものがこれです。小さな頃はよく意味がわからなかったのですが、「保険の一枚」という言葉は聞き流していました。しかし、なんとなく、『これがあれば、あとの作品は、もううまく書けなくても安心だ。』ということだろうと捉えていました。つまり、保険と安心は、ほぼ同じ意味だと思っていました。

生命保険や医療保険も同じことなのか、何か体験談はないのか、家族に聞いてみると、妹を出産するときに母が入院して、そのときに保険が役に立ったことを聞くことができました。産科に二カ月も入院していたので、かなり高額な給付金がおりて、とても助かったということでした。

「じゃあ、逆にもうかったってことじゃない。」

少しわくわくしてそう言ったら、母に否定されました。

「それは違うんよ。入院するだけなら、高額療養費制度もあるから、まあいいと言えばいいんだけど、入院するのは、病院に払うお金以外のお金も、意外にかかるものなんよ。」

入院すると、病院に払う以外のお金がかかるというのがよくわからないでいたら、

「例えば、自分の保育料。それまで保育園に行かずに家で過ごしたけど、お母さんが入院したら、昼間に自分の面倒を見られる人がおらん。どうしても一時保育に行ってもらわんといけん。そういうお金もかかるけん、保険はすごく助かるんよ。」

それを聞いてなるほどと思いました。違う生活を始めざるを得ないときは、それまでとは違う新たなお金も必要になってしまうということです。母は、できれば入院せずに、ずっと私と過ごしたかったから、すごく悲しかったけど、それがどうしてもできないから、せめて保険があつて本当に助かったと言っていました。

書道作品をつくるときは、保険の一枚は取っておくけれど、保険の一枚がとっておきの一枚になることはまずありません。たいていは、その後もつと良い作品ができます。しかし、もつと良い作品ができるまで頑張ろうと思えるのは、保険の一枚があるからです。安心して頑張るために保険は必要です。使わない

第59回中学生作文コンクール

に越したことはないけれど、ないと不安で、あれば心強いのが保険だと思います。